



月刊 千葉労働

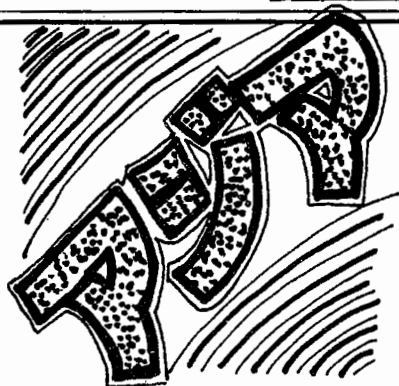
国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222)7207番

※ 電話番号は4月29日から変更になります

92.6.12 No.3608



侵略のPKO許すな 国際貢献は派兵への隠れミノだ!

6月14日 明治公園へ 結集しよう



国会には、労働者・市民が連日押しかけ、PKOへの怒りをたたきつけた。(写真は、議員会館前へ集まった交流センター) 6月5日

「国際貢献」を理由としたPKO法案は、自・公・民路線の下、参議院特別委員会の中で、テッチ上げ強行採決→参議院本会議での強行→衆議院へとこの八日以降送られ、憲法九条の精神そのものを否定していく自衛隊の海外派兵!!アジアでの権益確保を軍事重から補完し、再び侵略にうって出ることに結びつく恐るべき針路を進もうとしている。

われわれは、アジア諸国の民衆の決起に比べ、PKO法案成立阻止に向けて全力をあげて闘ってきた。その力が情勢を切り拓き連日の国会闘争として結実し、大衆的決起を生み出してきたのだ。何かなんでもPKO法案は阻止しなければならぬ。そして新たな段階では自衛隊の海外派兵!!カンボジアPKOの阻止に向けて更なる総体の決起をつくりださなければならぬ。

ればならない。そのことこそが日本労働者・人民が選択すべき道であり、軍事大団化を許さな、唯一の道なのだ!
日本の資本主義体制が、戦後のタブーに次々と踏み込むことで生きたびられないとしたならば、労働者・人民は闘いでその答えを突きつけなければならない!

であるがゆえに、六・一四全国集会は体制側に対する、われわれの側からの返答である。
全支部・全組合員は、PKO法案粉碎・自衛隊海外派兵阻止の実現のために、全力結集で東京・明治公園に集まろう!
われわれこそが歴史の主人公にならなければならない!

『家族も動揺し、生命のやり取りに腹が立つ』 藤尾靖之さん(反戦自衛官)を迎え、 家族会連続講座を開催(六月七日)

六月七日、十三時から、千葉市社会センターにおいて、第十一回家族会連続講座が開催されました。今回の講座には、昨年の四月、自衛隊掃海部隊のペルシャ湾への派遣に抗議して防衛庁長官に「直訴」した藤尾靖之さんを迎え、PKO法案の成立に対して自衛隊の中はどうなっているのかなどを語っていただきました。

講演の中では、昨年の湾岸戦争がベトナムや朝鮮戦争を思い浮かべせ、このまま自衛隊が出ていくことに非常に危機感を感じ、実際に止めなければならぬと決意し、誰にでも分かる生々堂々とした抗議を「意見具申」というかたちで行ったこと。今回のPKOの問題でも、一番動揺しているのは隊員の家族であり、隊員自身も、テレビなどで自分たちの「生命」のやり取りが国会の中で簡単に語られていること自体許せるものではない、と腹を立てていること。また、カンボジアへの派兵が実際に始まったら一方的に拡大されて他の国へも行かされることにもなりかねないことなど、自衛隊員と接している人でなければ分からない「ナマ」の話をしていただき、参加した家族会員も興味深げに聞き入っていました。

最後に、派兵反対を訴えている人たちこそ自衛隊員の権利や人権を真剣に考え、守っているのであり、それを自衛隊内からの決起に結びつけるためにも頑張りたいという決意も訴えられ、講座は盛況のうちに終了しました。